



◀159号住居址(西側から) 手前に埋甕がみえる。炉石はすべて抜去されていた。

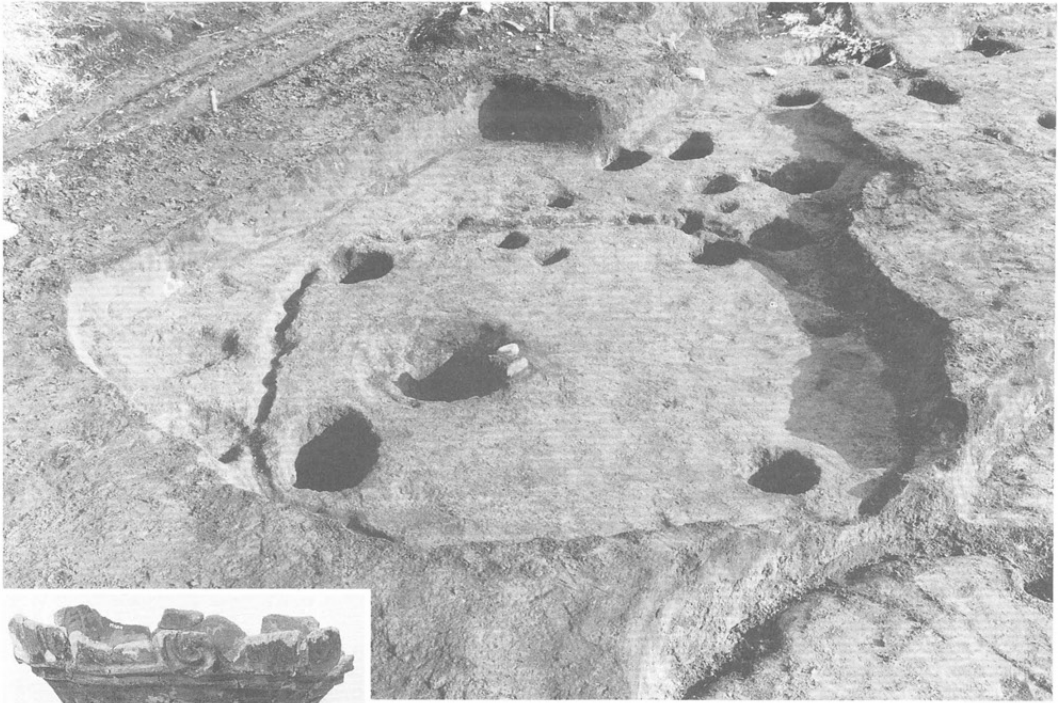
▼159号住居埋甕  
胴下半部正位で埋設。高さ24cm。



▼160号住居址(南側から) 炉石はすべて抜去されている。手前に埋甕が埋設されている。

▲160号住居埋甕  
底部から口縁までの完形品が正位で埋設されていたが把手は故意か偶然か、埋設時すでになかったと思われる。  
高さ25.5cm。





▲中央164号住居址 上方右手に163号住居址。左手に平安の165号住居址が一部検出されている。164号住居の炉は石が抜去されている。右手に埋甕が埋設されている。



◀164号住居埋甕 底部まで完存し、正位で埋設されていた。高さ34.5cm。



▲166号住居埋甕埋設状態と埋甕 検出面で出土し、住居は把握できなかった。底部穿孔。

土 偶



- 1) 46号住 2) 95号住 3) 82号住 4) 79号住 5) 92号住 6) 43号住  
 7) 28号住 8) 80号住 9) 19号住 10) 120号住 11) 108号住 12) 70号住  
 13) 49号住 14) 23号住 15) 80号住 16) 120号住 17) 56号住

1	2	3	4
5	6	7	
8	9	10	12
13		11	
14	15	16	17

ミニチュア土器



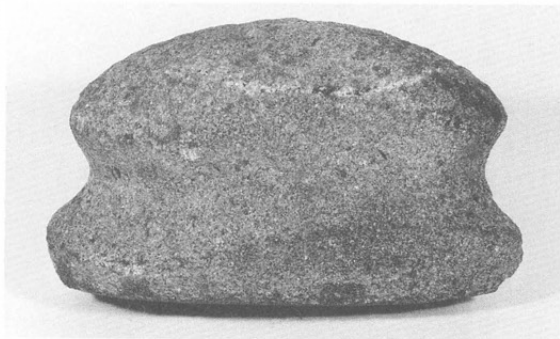
- 1) 30号住 2) 50号住 3) 41号小竪穴 4) 120号住 5) 43号住 6) 19号住  
 7) 135号住 8) 114号住 9) 24号住 10) 146号住 11) 126号住

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	

遺構外出土遺物



▲ミニ石棒 長さ6.1cmの小型

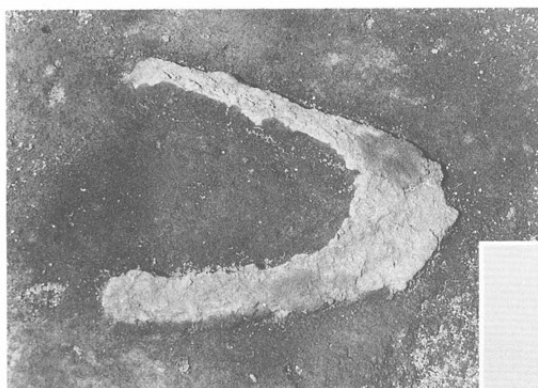


▲石冠

## IV 平安時代

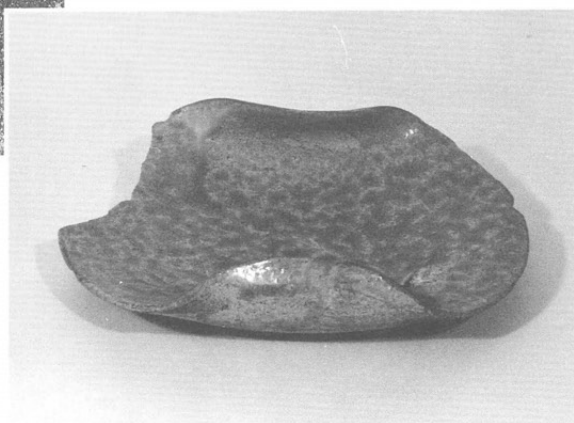


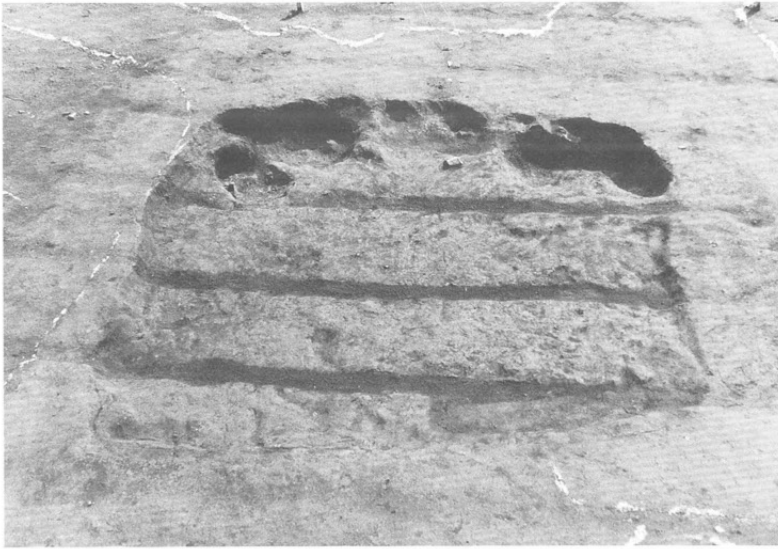
▲1号住居址 北西隅に小竪穴があり，中から耳皿出土。長芋耕作によりカマド西半分崩壊。



▲(同上) 南西隅床面から  
出土した鉄製鋤頭

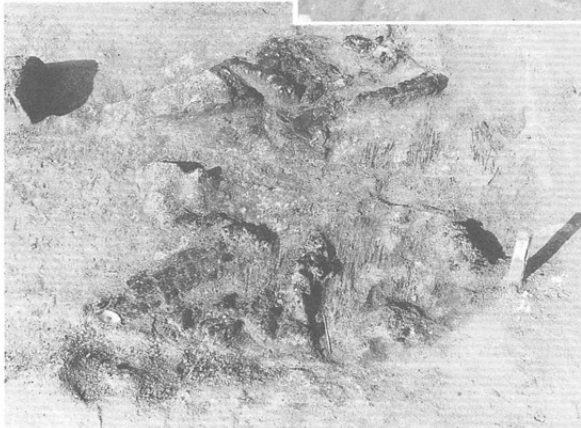
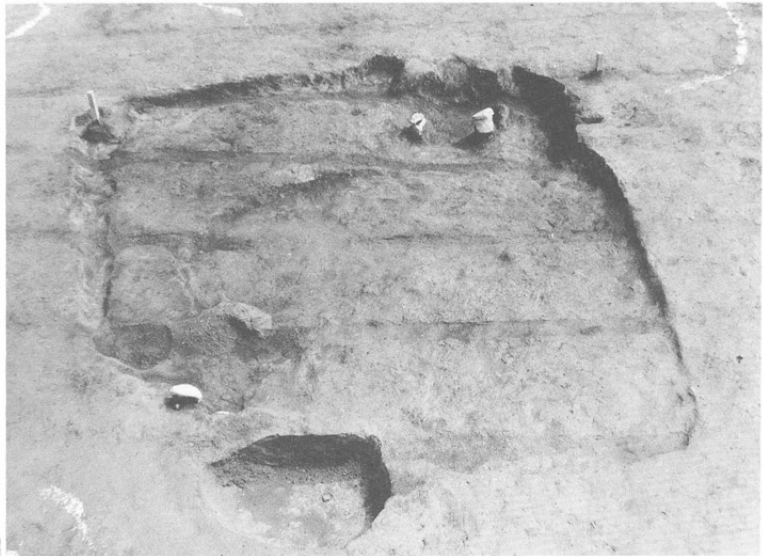
▼(同上) 小竪穴から出土した灰釉耳皿





◀2号住居址  
カマド両脇に小竪穴が  
あり、柱穴は見当たら  
ない。西側から。

▶3号住居址（右手前）と  
13号住居址（左奥）  
13号址の一部を掘り込ん  
で3号址を構築している。  
左手前が3号址カマドで  
右奥が13号址カマド。



◀焼失家屋の13号住居址には覆土  
に多量の炭化材と焼土があり、  
また床面は焼けススが付着して  
いた。

▶ 4号住居址

本遺跡の平安時代住居では最大規模で5.7 × 5.6mを測る。4本柱で周溝は全周し、カマド両脇に小竪穴を有する。



◀(同上) 北東隅柱穴脇の床面から出土した灰釉耳皿。

▶ 5号住居址

東壁中央の石組み粘土カマドはほぼ完存しており、主柱穴4本の典型的な住居址。

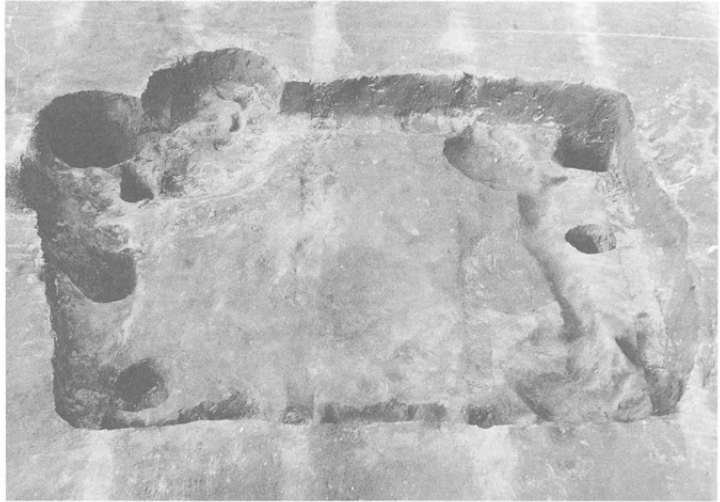


◀(同上) 住居址床面中央から出土した炭化材。



◀6号住居址  
カマドは元々石囲いであ  
ったが抜去されている。

▶7号住居址  
床面が一部貼  
床されている。



◀8号住居址  
4本柱であるが、南側の  
2つは大きく掘り込まれ  
小竪穴となっている。



- ▶9号住居址  
カマドの中央に長芋耕作が  
はいたため石囲  
いが崩壊している。



- ◀10号住居址  
南側は一部土手下に潜  
り全容は出ていない。  
右下の16号址に貼床し  
て構築している。

- ▶11号住居址  
カマドは石組みがなく  
粘土カマド。西側から。





◀12号住居址  
南側がやや内側に張り出した小型住居址。南東隅の小竪穴には拳大の礫が詰まっている。

▶14号住居址  
焼失家屋で、左手前はやや掘り過ぎ。中央右寄りに台石がある。

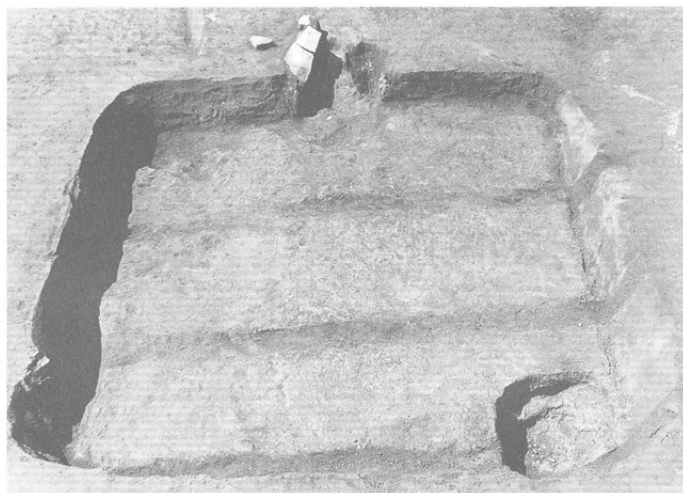


◀(同上) 遺物出土状態

▶住居址中央床面上から出土した炭化砧。



- ▶15号住居址  
カマド中央に長芋耕作がは  
いり石が抜かれている。西  
側は壁が2段になっており、  
建て直しも考えられる。



- ◀16号住居址  
左手に10号址が貼床で重複  
していたが、貼床を剥いて  
先に16号址を検出した。



- ◀26号住居址  
周溝の外側をやや掘り過ぎ  
ている。左手にカマド石が  
見られるが、かなり崩壊し  
ていた。



◀116号住居址  
4本柱でカマド石も残っているが、壁が崩れプランが不明瞭である。向こうは118号址



▲165号住居址 2個の坏が合わせ口で出た。

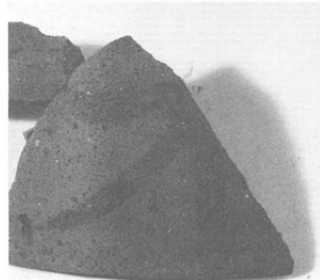




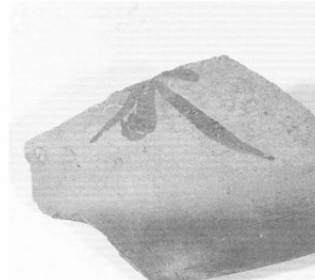
「目」  
4号住居址



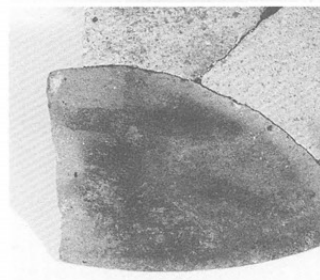
「木」  
16号住居址



「木」  
12号住居址



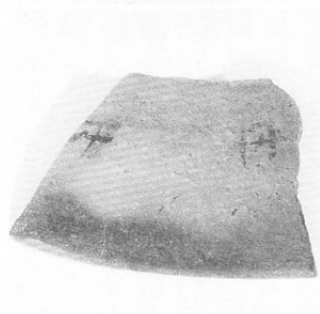
「木」  
16号住居址



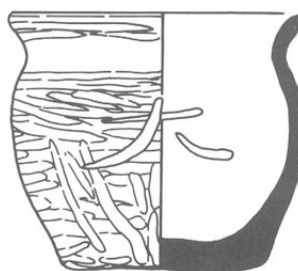
「木」  
12号住居址



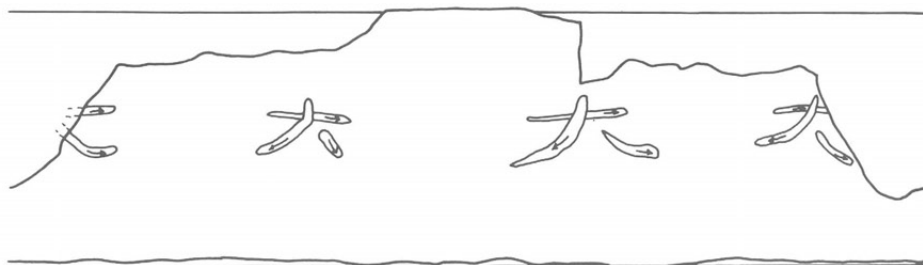
「木」  
26号住居址



「丹」  
16号住居址



「大」  
ヘラ 暗文  
13号住居址



## V 集落の構成とその変遷

### 1. 縄文時代

俎原遺跡は、筑摩山地東麓に発達する西に向かって伸びる一小舌状台地上に営まれている。遺跡は、西側の台地末端からは180mほど内奥にあたり、この部分の台地の幅は100mを測る。今回の調査は、南側の一部を除き、台地を横断する形で実施され、縄文時代集落のほぼ全容を明らかにすることができた。

発掘によって検出された縄文時代の遺構は、中期に属する住居址147軒、小竪穴169基に達し、出土した遺物は早期・前期の少量の土器片を除けば、全て中期に属するもので、各住居址・小竪穴を中心として多量に得られている。住居址は、直径40mの円形広場を取り囲み、幅20mほどの環状に配列する典型的な環状集落である。この集落址の北側は急な崖となり、崖下には水量豊かな牛亮沢川が流れ、南側は緩やかな斜面を形作りながら浅谷に面し、この浅谷の奥には恒常的に湧出する湧水がある。集落の飲用水は、この牛亮沢川と湧水とが用いられたと考えられる。この台地の南および北側にも同じような台地が発達しており、それぞれに同時期の集落址の存在が確認されている。したがって、俎原集落の生業地域は、こうした近隣台地上の集落と拮抗することのない地域内で行なわれていたものと考えられ、奥深いこの舌状台地上がその生活の主舞台となったものと推定される。

では、次に集落の変遷を概観してみよう。なお時期別細分は井戸尻編年に準拠している。

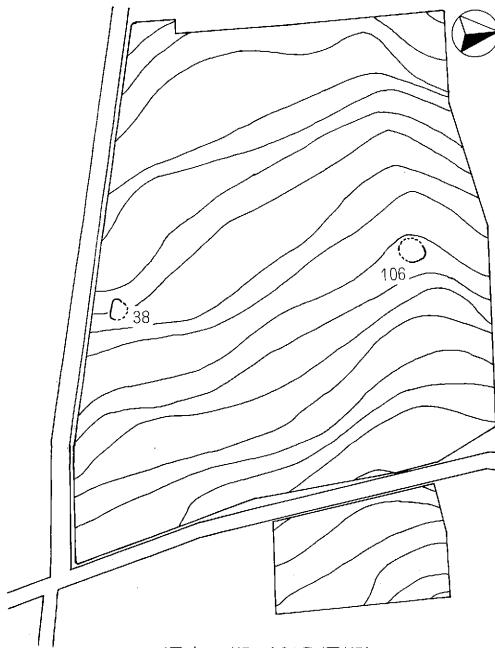
**縄文Ⅰ期**（早期押型文期） 俎原遺跡の初源期であるが、遺構の検出はない。細久保式に比定される3片の土器片が調査区西端で出土したのみで、極めて痕跡的である。定住的な集落を営んでいたとは考え難く、一時的な滞留であったと思われる。

**縄文Ⅱ期**（早期条痕文系土器群期） やはり遺構の検出はなかったが、土器片および押型文・条痕文系土器に特徴的に伴出する特殊磨石が台地北縁部を除き広範囲に出土している。台地全面にわたる活動の痕跡が認められることからして、一応の発展期と捉えられ、住居の幾つかは後の遺構群によって破壊されてしまったことも予想される。

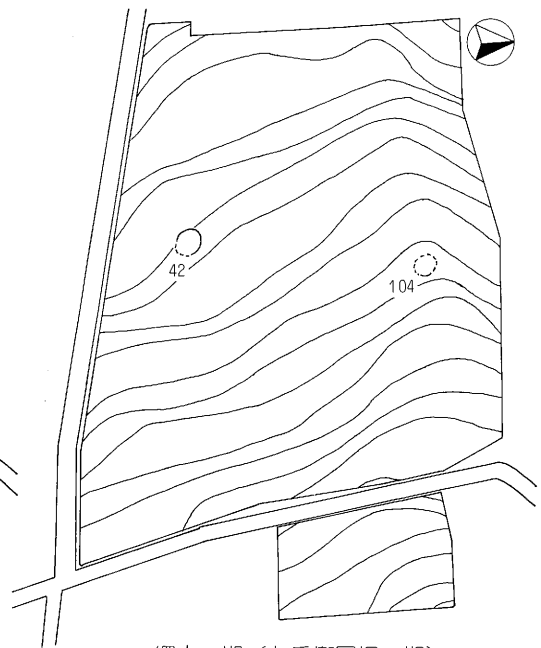
**縄文Ⅲ期**（前期諸磯期） 53号住居址の覆土から諸磯B・C式の土器片が出土している。量的には僅少であるが、その出土は前期末期の人々がこの地に去来していたことを物語っており、中期集落形成の導入としての位置づけができよう。

**縄文Ⅳ期**（中期梨久保期） 中期集落の初源期で、38・106号の2軒の住居がある。台地の北と南に分かれて占地する。両者には55mの空間が保たれており、台地上を2分し、集落発生時からすでに空間意識の萌芽があったことが分かる。2つの住居はともに後の住居との重複が著しく、詳細は判然としなが、106号で規模をみると、4.7×4.6mのほぼ円形を呈している。

**縄文Ⅴ期**（中期九兵衛尾根Ⅰ期） 42・104号の2軒が相当する。梨久保期と同じく南・北端に1軒ずつ配置し、梨久保期の住居と重複ないし隣接しており、居住域は踏襲されている。台地の2分割占拠は、ほぼ固定化した観がある。



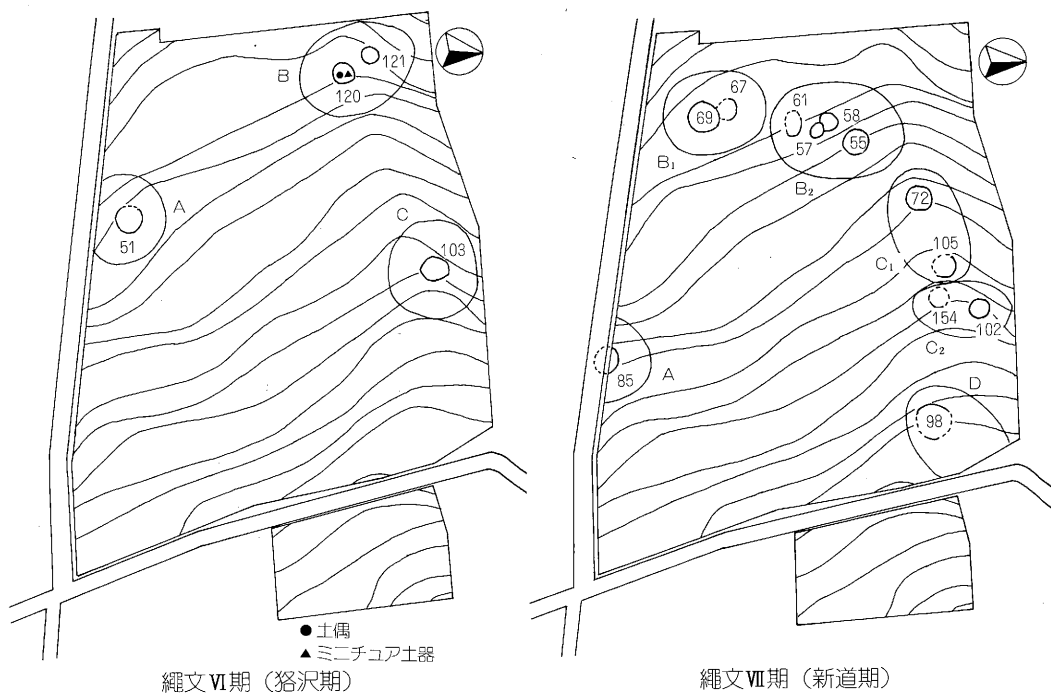
縄文Ⅳ期（梨久保期）



縄文Ⅴ期（九兵衛尾根Ⅰ期）

**縄文Ⅵ期（中期貉沢期）** 51・103・120・121号の4軒が該当する。Ⅳ・Ⅴ期とも2軒ずつの構成であったが、この時期に2倍に増加する。その配列は、前時期を踏襲した南・北端に位置する51・103号のほか、新たに北西地域に進出し、120・121号が構築されている。住居群は3つのグループに分けられ、各住居間は35～42mと大きな距りがあるが、その配列は半円弧状を示し、明らかに中央広場を意識したものとなっている。住居規模は、南北の51・103号は5m前後の楕円形を呈するのに対し、120・121号は3～4mのほぼ円形・小形で、若干の差が認められる。また、内部構造の炉は、南に位置する51・120号が地床炉、北側の103・121号が石囲炉で対象的である。出土遺物では、焼失家屋で北陸からの影響を受けた土器を含む120号から、土偶、ミニチュア土器が出土している。この貉沢期は、Ⅳ・Ⅴ期の住居が有機的・連続的に継承・発展され、中央広場の出現、信仰遺物の保有など本格的な廻原集落の確立期であったといえる。

**縄文Ⅶ期（中期新道期）** 左から85・69・67・61・57・58・55・72・105・154・102・98の12軒が相当する。住居の配列は、南・西・北に連続し、東に開口部をもつ馬蹄形状を呈する。住居群外縁径は65m×60mと拡大し、中央部には直径45mの明確な広場が形成されている。住居の配列は、前時期の配置を基本的に引き継ぎ、A85・B<sub>1</sub>69・67・B<sub>2</sub>61・57・58・55・C<sub>1</sub>72・105・C<sub>2</sub>154・102・D98の6群にグループングできる。B<sub>1</sub>・B<sub>2</sub>群で重複がみられることから、ここでは少くともさらに2段階に分けられる。したがって、各群とも同時併存は2軒前後を単位としていたものと考えられ、それまでよりも同時併存軒数は倍増したことが指摘できる。住居規模は、69・55・98号のようにやや大形の5～6mの円形を呈するものと、3～4mを呈する小形のものとがあり住居規模の差が顕著となる。このうち大形の住居は各群中に1軒程度含まれるようであ

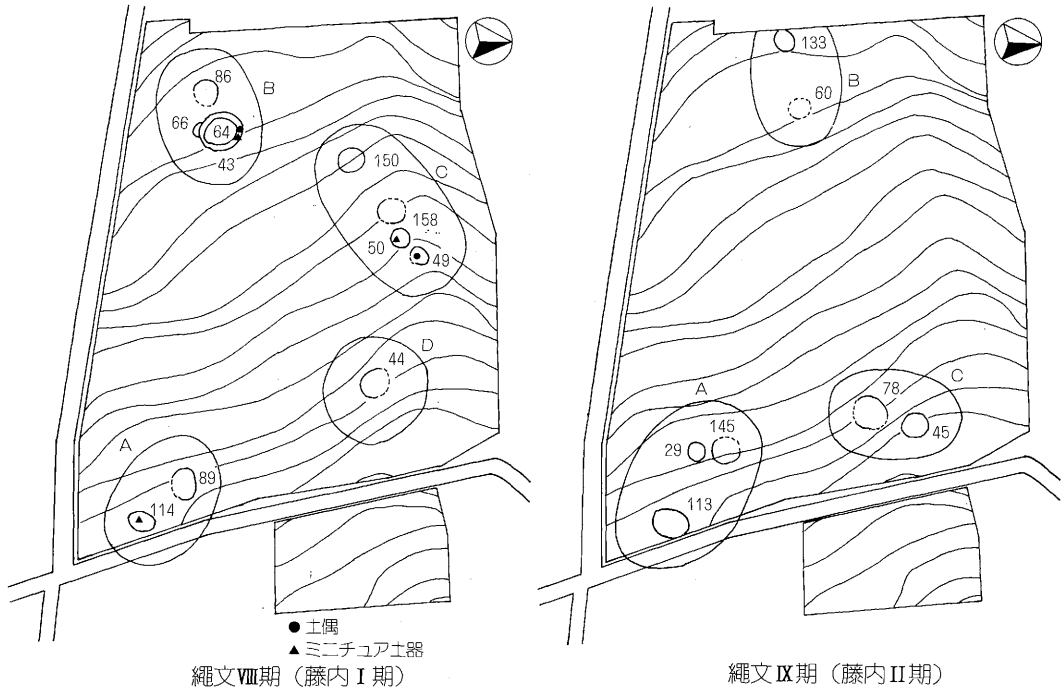


る。内部構造では、地床炉と石囲炉とを一般とするが、B<sub>2</sub>群のみに埋甕炉・石囲埋甕炉が存在し特異である。新道期は、住居址数の増大ばかりでなく、生活空間の拡大がはかられ、埴原集落の発展期と捉えられる。

**縄文VIII期 (中期藤内I期)** 南からA群114・89・B群66・64・43・86・C群150・158・50・49 D群44号の11軒がある。この時期には、新道期に開口部だった南東方向に住居が進出する。住居間に一定の間隔を保ち、散在的に馬蹄形状を呈していた新道期とは異なり、少数の住居が小範囲に固まる傾向があり、それらが1つの群をなしている。南側の未調査区域にも1ないし2の住居群があると仮定して、住居群を全体的にみれば70mの大きな環状を形作ることになる。Aでは89号(6.1×5.0m)、Bでは43号(8.0×7.2)、64号(6.1×5.2)、Cでは150号(5.2×5.0)、158号(5.1×4.3)とそれぞれ大形の住居が含まれ、これらに付随して小形の住居が存在する点は興味深い。内部構造をみると、Aでは114号が地床炉、89号が石囲炉、Bでは64号が地床炉、86号が石囲炉、Cでは49号が地床炉、150・50号が石囲炉を有し、各群中で異質の炉が対をなして構築されている。出土遺物では、A114号でミニチュア土器、B43号で土偶・ミニチュア土器、C49号で土偶、50号でミニチュア土器、器台がそれぞれ出土し、各群ごとにこうした信仰遺物が保有されていた可能性をうかがわせる。

**縄文IX期 (中期藤内II期)** 113・29・145・133・60・78・45の7軒が相当する。藤内II式のA、D群を継承したA113・29・145号、C78・45号を、B群を引き継いだB133・60号の3群にグループニングできる。東と西に偏在して配置し、梨久保期以来藤内I期まで主要居住域だった南北縁辺部には1軒の住居も構築されず、埴原集落が始まって以来の伝統ともいえた台地南北縁辺部占拠



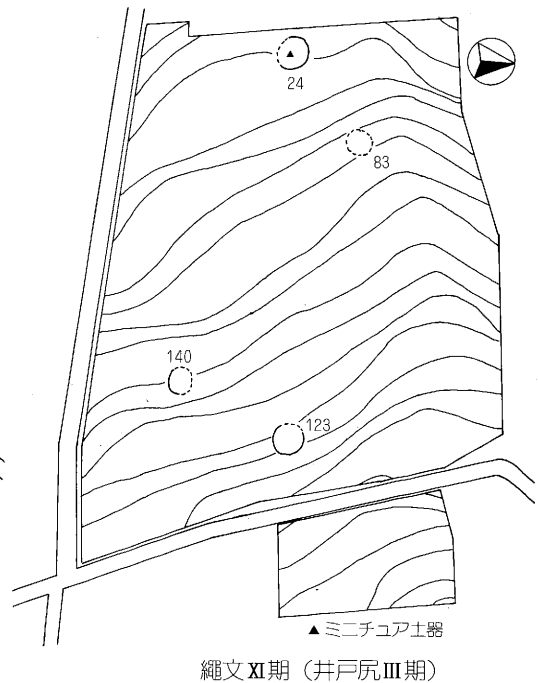
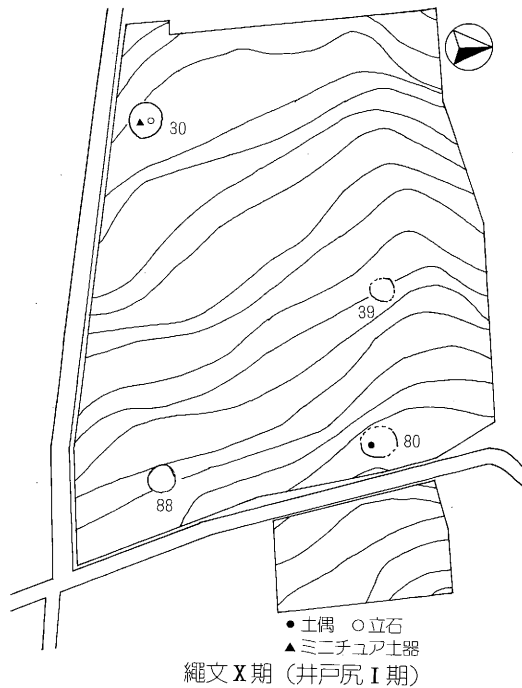


法は、この期に至って崩れる。各群は2～3軒の単位で、ここでもやはり直径5～6m前後の113・145・78号の大形住居と4m前後のやや小形の29・60・45号の住居とが対をなし、石囲炉(29・145・150・78号)と地床炉(113・45号)もそれぞれの群の中で対をなしている。

**縄文X期 (中期井戸尻I期)** この期に該当するのは88・30・39・80号だけで、戸数は半減する。藤内II期のA群が80・39号に、B群が30号に踏襲されたと考えられる。大きくは30号と88・80・39号とに2分割でき、さらに88・80・39号は24mの間隔があることからこれも小分割されるとすると、4つのグループが扱えられることになり、従来2～3戸が1グループを形成していたものが各グループとも1戸になる。空間的には北西に開口した馬蹄形状を呈するといえようか。西側の30号は石囲炉で、北壁ぎわに立石があり、ミニチュア土器が出土。北側の80号は石囲埋糞炉で、土偶が出土し、39号は地床炉であった。炉は3住居とも異なり、信仰遺物の分有も顕著である。

**縄文XI期 (中期井戸尻III期)** 140・123・24・83号の4戸がある。24・83号と140・123号は50mの空間を介して西・東端に対峙する。戸数的には前代と大きな変化はない。24号は6m前後の大形で石囲炉を有し、83号は4.5m前後の小形で、地床炉をもつ。140・123号は詳細不明であるが、ここでもやはり住居規模、内部施設に対象的な性格を見い出すことができる。

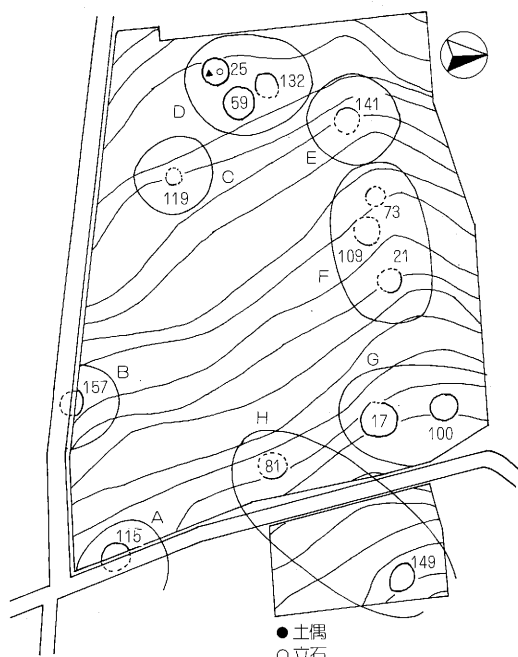
**縄文XII期 (中期曾利I期)** 左からA・115, B・157, C・119, D・25・59・132, E・141, F・73・109・21, G・17・100, H・149・81の8群14軒がある。井戸尻III期の4倍に戸数が急増し、ほぼ環状を呈して配列する。環状外径で東西100m, 南北推定80mを測り、中央広場は40×40mと集落占地規模は最大となる。各群は2～3戸が単位となり、住居規模の大小差はみられるが、炉址は石囲炉・石囲埋糞炉・地床炉が不規則に設けられ、対をなすような状態は認められな



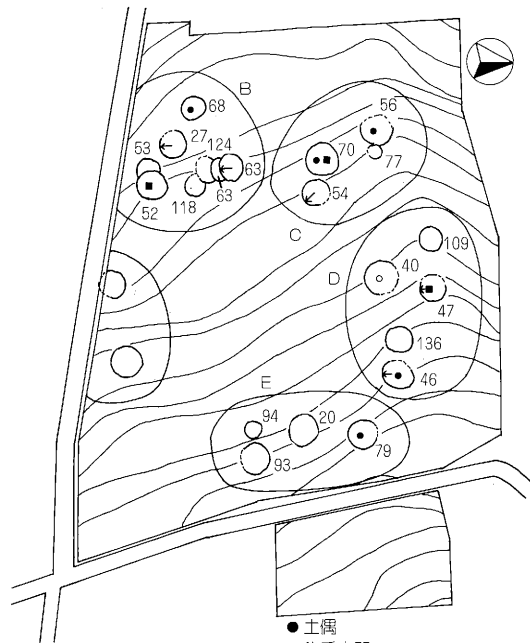
くなる。

**縄文 XIII 期** (中期善利 II 期) A34・84, B52・53・27・68・118・124・62・63, C54・70・97・56, D107・40・47・136・46, E79・20・94・93の5群23軒がある。東西65mの環状を呈し、前代よりわずかながら縮少するとともに東方向に移動している。A・E間に15mの空白があるので集落は南東に正面観をもたせた配置をとったとも考えられる。B・C群、とくにB群では重複が著しいので、ひんばんな建て直しがなされたものと思われる。炉は、それまでの石囲炉、石囲埋甕炉、地床炉から石囲炉のみに統一される。この石囲炉には、炉石が完存するものと住居廃絶時抜去されたと思われるものがあり、炉石の完存、抜去現況を検討してみると、各群とも一時期2~3戸が存在していたことがうかがえる。また、住居群全体が調査されたB・C・D群での信仰遺物をみると、Bでは68号から土偶、52号から釣手土器、63号で土偶があり、Cでは70号で土偶・釣手土器、56号で土偶、54号で埋甕があり、Dでは46号で土偶と埋甕、47号で埋甕・釣手土器、40号で石棒がそれぞれ出土している。各群で土偶・釣手土器・埋甕の保有がなされていることが分かる。おそらく各群内の住居は、そうした信仰遺物を共有する1つのグループを形成していたのであろう。

**縄文 XIV 期** (中期善利 III 期) 左から、A91・90・128 92・19, B32・33・35, C41・117, D138, 23・74・75, E・48・22・77・101, F・164・166・163・137・162・147・148, G・82・146の27軒が相当する。埴原遺跡を形成する時期の中で、XIV期は住居数が最多となり、最も繁栄した時期である。A~Gの各住居群は、40mの広場を取り囲み、C・D群間にわずかな空白部を有する整った環状形態を有する。各住居は塊状に分布し、A・B・D・E・F群では重複も著しく、また石



縄文XII期（曾利I期）



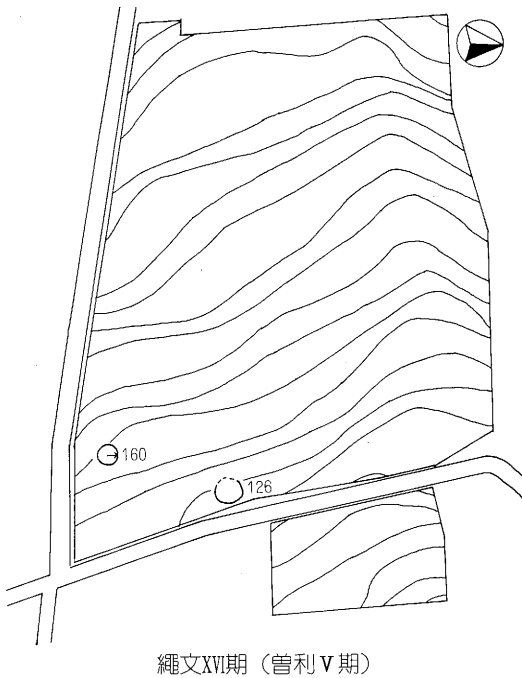
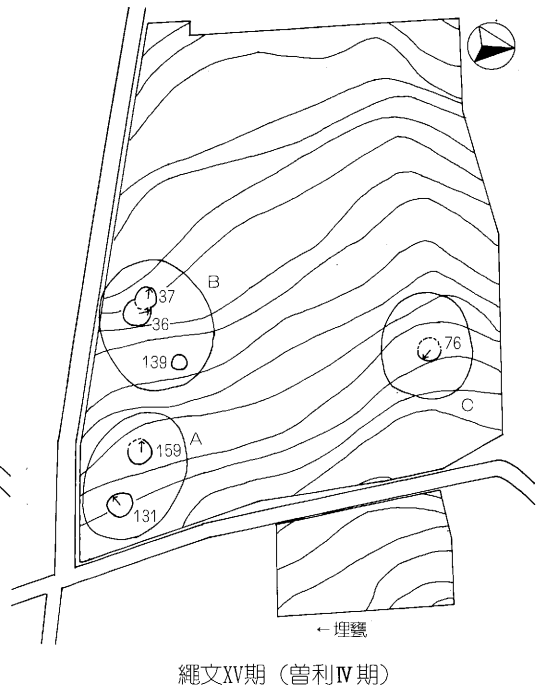
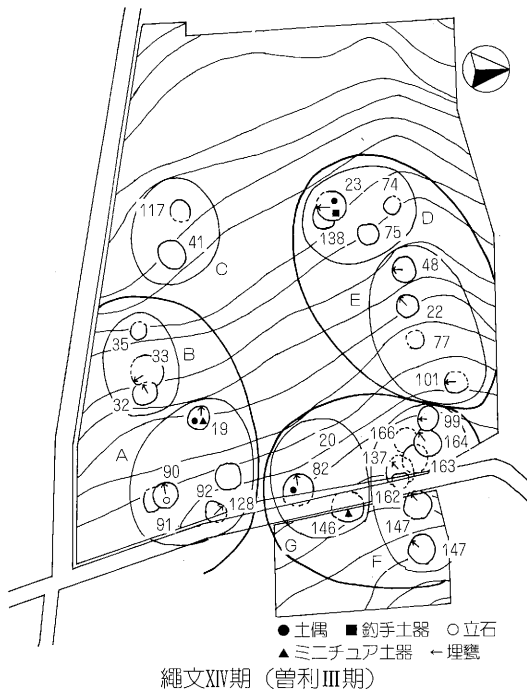
縄文XIII期（曾利II期）

囲炉の炉石は抜去されている例が多く頻繁な建て直しが行なわれたことを示している。集落は、全体的に従来までの占地場所から東方への移動がみられる。信仰遺物の出土状況をみよう。A群では19号で土偶・ミニチュア土器・埋甕、90号で立石・埋甕、128号で埋甕、B群では32・33号で埋甕、D群では23号で釣手土器・土偶、E群では48・22・101号で埋甕、F群では99・164・137・147・148号で埋甕、128号で土鈴、G群では82号で土偶・埋甕、146号でミニチュア土器がそれぞれ出土している。土偶は、A・B、D・E、F・Gのどちらか一方に保有され、埋甕は両群から検出されている。埋甕は各家々で、土偶は隣接する2つの住居群が1つのまとまりをもちつつ共有していたのではないかと推定できる。興味深い事実といわねばならない。住居数、集落形態、祭祀形態などいずれにおいても埴原集落の典型を示し、極盛期であったといえる。

**縄文XV期（中期曾利IV期）** 曾利IV期になると集落の様相は一変する。住居数は激減し、わずかにA131・159号、B139・36・37・76号の6軒のみとなっている。しかも36・37は重複していることから、同時共存はさらに少なくなり、A・B各群は2戸程度で構成されていたと考えられる。住居配置も、もはや環状は崩壊し、南東と北東の隅に押し込められたように小範囲に配列している。139号を除き、他の4軒は埋甕を有することから、その保有率は高い。

**縄文XVI期（中期曾利V期）** 160・126号の2軒のみとなる。両住居は18mの隔りもち、散村的となる。その占地場所は、前代よりさらに南東に移行し、最終末の様相を示している。両住居とも土囲炉で、炉石は抜去されている。この2軒を最後に、縄文時代の埴原集落は終焉する。

以上、縄文時代の埴原集落の移り変わりを概観してきた。埴原は、縄文中期初頭より最終末に至るまで、中期という時代区分の中で、殆んど切れ目なく連続して集落が営まれた希有の遺跡で



ある。長い中期の間には幾つかの波が認められる。発生期の梨久保期，確立期の九兵衛尾根Ⅰ，貉沢期を経て，新道期に至り，中期前半の1つの頂点を迎え，台地全面を占拠した明瞭な馬蹄形集落を形成する。以後藤内Ⅰ・Ⅱ期とやや停滞気味となり，井戸尻Ⅰ・Ⅱ期には過疎化が一段と進むが，中期後半の曾利Ⅰ期になると再び上昇期を迎え，かつてないほど広範囲に住居群が展開し，その配列も再び環状を呈してくる。つづく曾利Ⅱ期には，確実に住居軒数も増加し，環状配列も形が整ってくる。次の曾利Ⅲ期は，祖原集落の極盛期ともいえ，住居軒数は最大となり，住居間の重複も著しく，塊状を呈しつつ，典型的な環状集落を形作っている。信仰遺物も充実し，安定した集落の在り方を示している。ところが次の曾利Ⅳ・Ⅴ期になると，急速に住居は減少

し，それぞれの集落占地の一角にわずかな住居が構築されるのみの衰退期となる。以後，この地は平安時代まで何千年間かの空白の時期を迎えることになる。

## 2. 平安時代

今回の調査では19軒の平安時代住居址が検出された。これらの分布をみると一軒を除き他すべてが調査区の南半部、即ち尾根の南側緩斜面を余すことなく占居している。台地縁にあたる北側は約40mの幅で空白地帯となっており、前述した縄文集落の広大さに比べ住居数の違いはあるが小範囲に限られ、立地選択が行なわれていた可能性が強い。住居址は第10号と第16号、第3号と第13号が重複しているが、残りは全く重複せず単独住居として不規則に散在している。調査区北東部に孤立する165号は特異的な位置に検出されたが、壁・床が僅かに検出されたのみで詳細はわからず、他住居址との比較検討は残念ながらできない。

住居址の規模をみると最小の第3号址(2.9×2.9)から最大の第4号址(5.7×5.6)までであるが、そのほとんどは一辺3.4m~4.6mの範囲に含まれ、全体的に小型の観がある。形態としては全て隅丸方形のプランを呈し、長軸を台地方向(E-W)もしくはそれに直交する方向(N-S)に設けてあり、極端に異なるものはない。

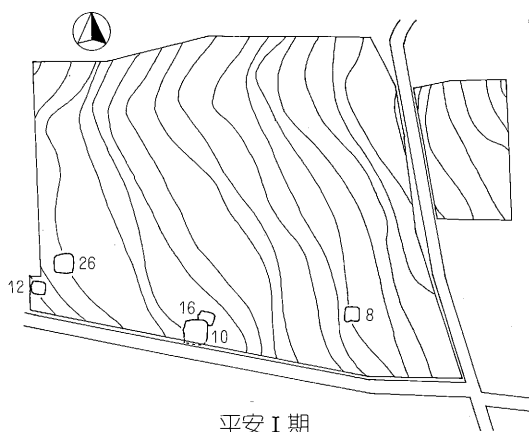
これらの中で特徴的な住居としては焼失家屋の存在がある。第13号址は第3号址に2/3以上を切られており、全体を把握することはできないが、残存する覆土や床面におびたしい量の炭化材や焼土の出土があった。また第14号址も同様多量の炭化材、焼土の出土があり、遺物はこれらの中に埋もれるように完存しており、焼失時の搬出が不可能であったことをよく物語っている。なお本址の特筆すべき出土遺物として焼成炭化した砦がある。柄がやや欠損しているがほぼ完形で、台石に使用されたと思われる礫と共に対で出土している。

次に各住居址の時期的区分をしてみる。今回の調査で出土した土器の分析から一応4時期に大別することができた。これを便宜上、第Ⅰ~第Ⅳ期とし、各時期ごとの様相を考えてみたい。なお、出土した土器が少なく時期決定が判然としないものについては検討の対象から除外した。時期の判明した住居址は19軒中15軒である。

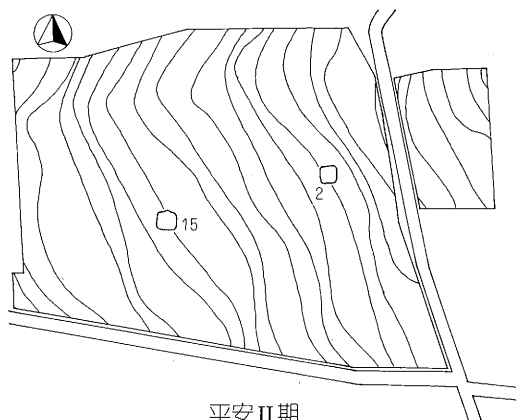
**第Ⅰ期** 第8号、10号、12号、16号、26号住居址の5軒が相当する。調査区の南端にあり、台地方向に沿って占居している。台地のより内側には他時期の住居址が全く存在しないところから集落初現期は台地の南側に発生したものと推察される。この時期の住居の特徴としてはカマドの位置が第8号址を除いて西壁に構築されていることである。第10号、12号、16号址は西壁中央に、第26号址はやや北寄りに設けられている。またこれに伴い住居址の長軸方向もN80W~EWに限定されている。

**第Ⅱ期** 第2号、15号住居址の2軒が相当する。集落の北東端と中央西側の2ヶ所に分かれるが、南側に展開した第Ⅰ期の様相は第Ⅱ期になり一変して北側へ進出する。また第Ⅰ期に西壁に設けられたカマドは東壁と北壁へ移る。この現象は第Ⅰ期にも8号址にのみみられたが、本期では住居址数こそ僅少であるが顕著となる。なお、ここでは第Ⅰ期にカマドの位置と一致していた長軸方向が、第Ⅱ期になると直交するという現象も指摘できる。

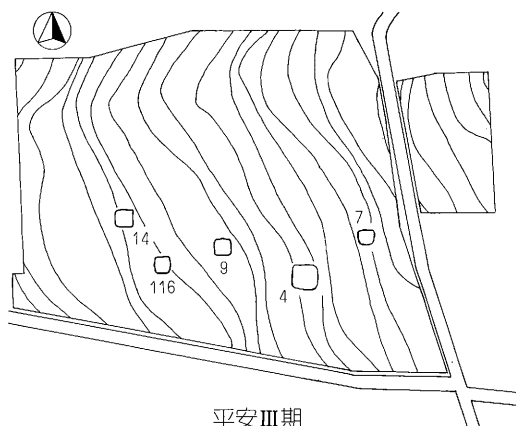
**第Ⅲ期** 第4号、7号、9号、14号、116号住居址が相当する。第Ⅱ期に北側へ進出した住居は再び南側へ戻り、第Ⅰ期と第Ⅱ期の中間域、即ち集落の中央線沿いを占居する。カマドの位置は



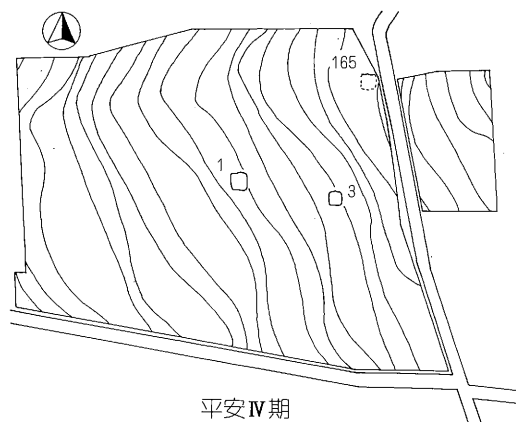
平安Ⅰ期



平安Ⅱ期



平安Ⅲ期



平安Ⅳ期

やはり北壁が主体となり、西壁と東壁が一軒ずつとなる。しかしこれらは全て長軸方向と直交するという第Ⅱ期の現象が継続しており、第Ⅰ期のものとはやや性格を異にしている。

**第Ⅳ期** 第1号、3号、165号住居址がこれに相当する。集落の北東端へ移り、他時期の場所よりやや高位置に設けられている。カマドは全て北壁となり完全に移行したことを示すが、長軸方向との関係については再び第Ⅰ期と同じく一致するようになり元へ戻るようになる。

以上、各時期ごとに集落の変遷を概観したが、全体を通してみると集落の南側に始まり、北側、中央域、北東端と明白な位置の移動があり、またそれと共に第Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の線的配置から第Ⅳ期の点的配置への移行も注目したい現象である。カマドの位置については、第Ⅰ期では西壁中央を主体にしていたが次第に北壁が多くなり、最後の第Ⅳ期では全て北壁となっている。ただこの検討資料には5軒出土した東壁カマドを有する住居址のほとんどが時期決定できなかったため短絡的に西壁から北壁といった移行過程を断定するに至らない。

整理された資料が未だ不十分なため、現段階で具体的な検討にはいることはできないが、資料、とりわけ出土遺物の整理が進むなかで再検討を試みたい。

## VI ま と め

筑摩山地東麓は、松本平でも有数の遺跡地帯で、小河川によって開析された舌状台地上には縄文、平安時代を主体とする遺跡が踵を接するように分布している。

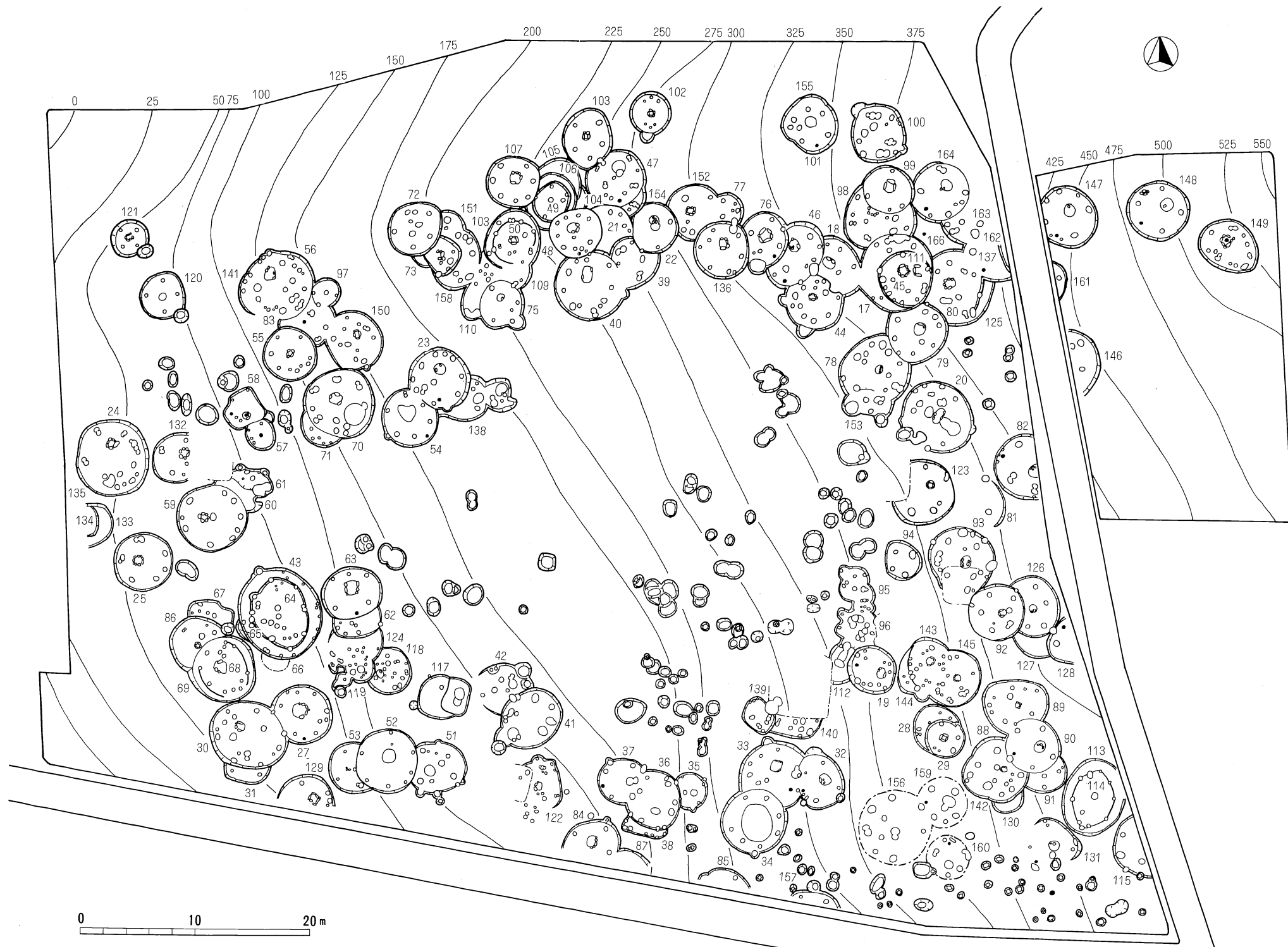
俎原遺跡もそうした遺跡群の中の1つで、今回、塩尻インター林間工業団地造成事業に伴なって事前発掘調査が実施された。調査区域は、小舌状台地末端から180mほど内側の部分を、南北に110mの幅で横断する形となった。その結果、縄文時代・平安時代の集落址を露呈することになり、大きな成果を納めることができた。

今回の調査での最も大きな成果は、縄文時代中期の集落址を1部を除き露呈できたことで、その景観は圧倒的である。発見された住居址は147軒に達し、これに付随する小堅穴も中央および南東を中心に分布している。これらは中央に直径40mの広場を幅20mの住居群が環状に取り巻く縄文時代環状集落の典型的な姿を示している。しかし、この姿は中期初頭から最終末まで少なくとも13段階にわたって1時期数軒程度の住居が弧状あるいは環状に併列するといったことが、長期間繰り返された結果生まれた最終的な姿といえることができる。

筑摩山地山麓に所在する数ある縄文中期遺跡の中で、その初期から終末まで間断なく集落が存続することは希有な例であり、この地域における中核的、拠点集落といえる。そのため、当時の集落を構成する住居、小堅穴の遺構、土器、石器、信仰遺物などあらゆる痕跡が残されているともいえ、これらの分析を通して、様々の興味ある事実が浮かび上ってこよう。松本平はもとより、中部高地においても貴重な資料となり、今後の縄文中期集落研究の基礎的資料となるものであった。

平安時代では、19軒の住居址が発見された。平安時代の10世紀前半から11世紀中頃にかけての集落址である。近時、塩尻では田川流域を中心に高出遺跡群、吉田向井、吉田川西など大規模な遺跡が相次いで発見され、低平地に当時の中核的集落が営まれていたことが分かってきた。一方、筑摩山地東麓には、内田原、舅屋敷、俎原、小丸山などやや高所に立地する小規模な集落が展開している。最近、問題が深化しつつある平安時代の里棲み集落、山棲み集落の問題にも一石を投じよう。

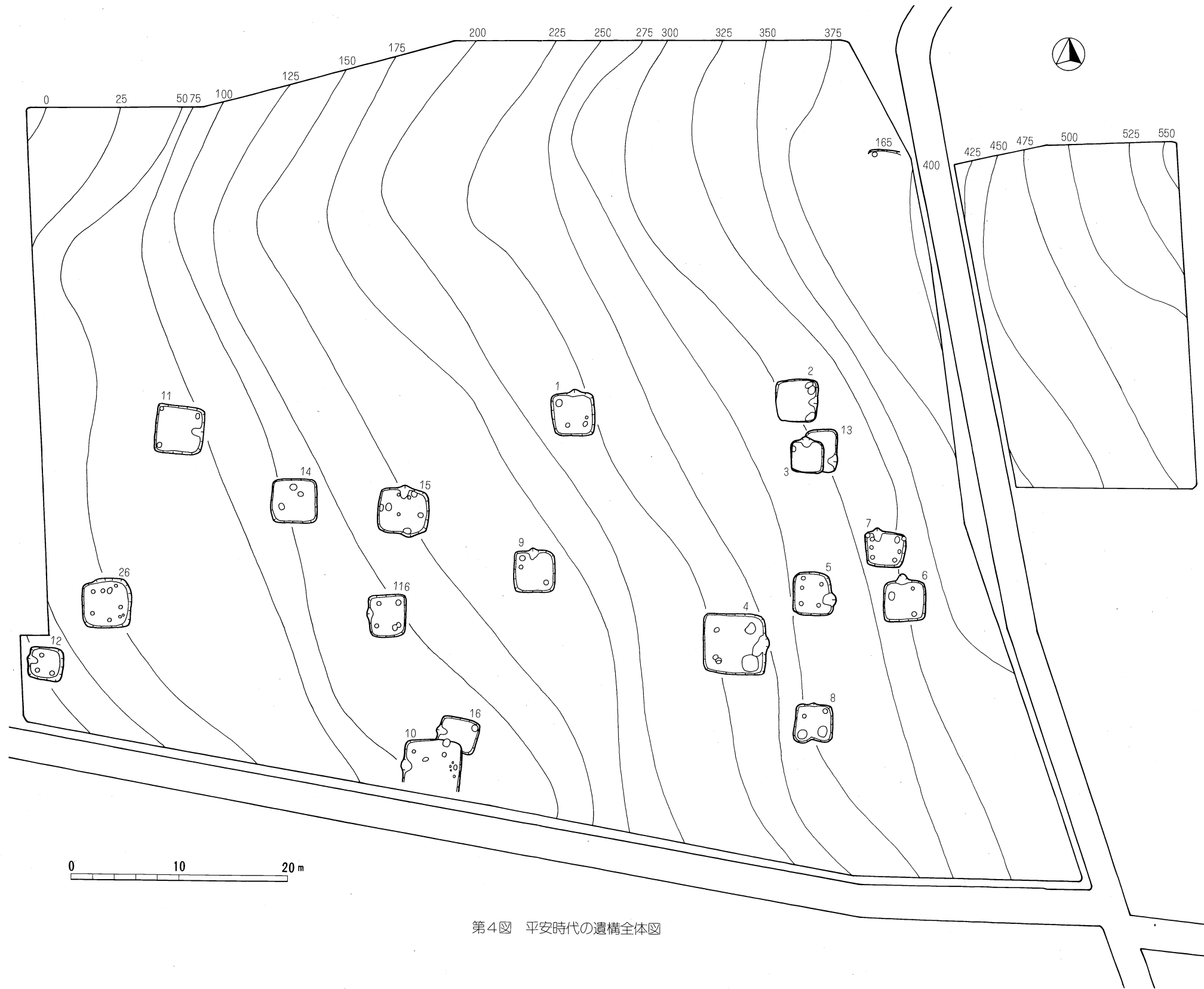
俎原遺跡の発掘によって得られた資料は膨大である。現場における作業が終了してから、報告書作成までに与えられた整理期間は、極めて短期間であったため、不十分なままの報告にならざるをえなかった。概報とした所次である。引き続き、整理作業を実施し、詳細な報告、分析は後日を期したいと思う。



第3図 縄文時代の遺構全体図







第4図 平安時代の遺構全体図



## 凡 例

### 1. 縄文時代・平安時代住居址一覧表

- ・住居址の時期決定は、出土土器により判定した。
- ・「楕円形」プランについては、便宜上、長径と短径の差が長径の10%を越えるものとした。
- ・規模・壁高の単位はcm。
- ・規模の（ ）は推定規模を表わす。
- ・壁高は、東・西・南・北の順で示した。
- ・炉の（抜去）は、炉石の一部抜去も含めた。
- ・切り合い関係は、矢印の向く側の住居が新しい時期であることを示す。
- ・深志高校地歴会により調査報告されている住居址については、備考欄で表示した。

### 2. 縄文時代出土遺物一覧表

- ・土器の分類には、井戸尻編年を使用した。なお平出3A（平3）の挿入箇所は必ずしも編年位置を示していない。
- ・土偶・ミニチュア土器は土器欄に記入し、特殊なものは備考欄に特記した。
- ・出土土器欄には、出土した土器の種類はその多少にかかわらず全て「○」で表示し、住居の時期決定となったものは「◎」で示した。なお、時期決定に用いた土器は、床面直上一括土器、埋甕、埋甕炉、完形土器、および多量に出土した土器を標式とした。
- ・石器は、各住居から出土したものは全て数量にて表示した。
- ・凹石の表示数のうちで、磨石と凹石の兼用品は、備考欄で「\*1」のように表示し、磨石欄での表示数にこの数は含まれていない。
- ・磨製石斧の表示数のうち、乳棒状の数は、備考欄で「◇1」のように表示した。
- ・石匙の区分は、小形鋭利のものを「石匙」とし、大型粗形石匙は「大匙」とした。

### 3. 平安時代出土遺物一覧表

- ・出土土器の時期区分については、4時期に大別し、便宜上第Ⅰ～第Ⅳ期とした。各時期はおよそ第Ⅰ期：10C前半、第Ⅱ期：10C後半、第Ⅲ期：10C終末～11C前葉、第Ⅳ期：11C中葉にあたる。
- ・出土土器欄には、出土量にかかわらず「○」で表示した。灰釉陶器の皿と碗については、時期決定の資料としたため、判別されたものにつき「光ヶ丘」を「ヒ」、「大原」を「オ」、「虎溪出」を「コ」、「丸石」を「マ」と表示した。

## 縄文時代住居址一覧表

住居	場所 (フラット)	時期	プラン	規 格	壁 高	床面	炉 構 造	位 置	周 満	主柱穴	内部施設	切合い関係	頁	備 考
17	E・F-19-20	曾I	円 形	670 × 640	50, 一, 10, 一		石罫	中央	なし	5		→18, 45 ←78, 80, 98	6	
18	E・F-18	不明	円 形	(570)×(510)	40, 一, 一, 40		石罫(抜去)	中央	一部	(6)		→46 ←17, 44	8	
19	N-18-19	曾III	円 形	420 × 420	40, 40, 40, 45		石罫(抜去)	東	全周	4	埋篋(西)	→5 ←96, 112	10	
20	H・I-20-21	曾II	円 形	610 × 610	20, 5, 5, 20		石罫(抜去)	中央	一部欠	5			11	
21	D・E-13	曾I	円 形	490 × 480	20, 一, 一, 5		——	——	全周	不明		→39, 40, 48	12	
22	D・E-14	曾III	円 形	470 × (450)	20, 一, 20, 40	一部 貼床	石罫(抜去)	北	全周	(4)	埋篋(石罫) (南西)	→154 ←39, 152	13	
23	G・H-9-10	曾III	円 形	500 × 500	50, 50, 30, 50		石罫(抜去)	北	一部	6	埋篋(南)	←54, 138	14	
24	I・J-2-3	井III	円 形	630 × 610	70, 40, 一, 60		石罫	北	一部	6		←135	18	焼失家屋の 可能性
25	K・L-3	曾I	円 形	550 × 510	25, 10, 15, 15		石罫	西	全周	5	立石		17	礎石の可能 性
27	O・P-6-7	曾II	円 形	540 × 530	35, 10, 一, 20		石罫	中央	一部	6	埋篋(南)	→30	20	
28	O・P-20-21	不明	円 形	470 × (430)	10, 5, 一, 15		——	——	一部	(5)		→29	21	
29	O・P-20-21	藤II	円 形	360 × 340	15, 10, 25, 15		石罫	中央	全周	4		←28	21	
30	O・P-5-6	井I	楕円形	670 × 580	10, 15, 10, 25		石罫	北西	一部	6	立石	←27, 31	22	
31	P・Q-5	不明	楕円形	380 × (320)	20, 15, 10, 一		——	——	なし	(4)		←30	22	
32	P・Q-17-18	曾III	円 形	490 × 460	35, 一, 10, 20		石罫(抜去)	東	全周	4	埋篋(南西)	←33	24	
33	P・Q-16-17	曾III	円 形	560 × (560)	一, 一, 20, 20		石罫(抜去)	北	一部	(6)	埋篋(南東)	←32, ←34	24	
34	Q・R-16-17	曾II	円 形	560 × 560	25, 10, 5, 一		——	——	全周	6		→33	24	
35	P・Q-15	曾III	円 形	300 × 300	30, 一, 10, 25		石罫(抜去)	東	一部欠	4		→36	23	
36	P・Q-14-15	曾IV	楕円形	550 × 480	35, 30, 一, 30		石罫(抜去)	南	一部	4	埋篋(石罫) (北)	→37 ←35, 38	23	
37	P・Q-13-14	曾IV	円 形	400 × 410	一, 30, 25, 40		石罫(抜去)	東	半周	4	埋篋(西) 平石	←36	23	
38	R-14	梨久	—	370 × —	30, 10, 10, 一		——	——	なし	不明		→36	23	
39	E・F-13-14	井I	円 形	460 × 410	45, 一, 25, 10		地床炉	東	なし	(4)		→22, 40 ←21	12	
40	E・F-12-13	曾II	円 形	620 × 610	30, 15, 30, 10		石罫	北	一部	6		→48 ←21, 39	12	
41	O・P-11-12	曾III	楕円形	580 × 490	5, 10, 10, 10		地床炉	南東	なし	4		→42	17	
42	N・O-10-11	九I	楕円形	530 × 440	5, 5, 5, 20		——	——	なし	4		←41	17	
43	L・M・N —5-6	藤I	円 形	800 × 720	50, 40, 30, 30		——	——	全周	8		→64, 65 ←66	26	
44	F-17-18	藤I	楕円形	580 × 470	35, 30, 40, 5		石罫	中央	一部欠	6		←18, 46	8	
45	E・F-19-20	藤II	楕円形	470 × 410	10, 10, 15, 10		地床炉	中央	なし	4	石皿床倉出 土	→111 ←17	6	
46	E-17-18	曾II	楕円形	590 × 450	55, 25, 30, 50		石罫(抜去)	北	全周	不明	埋篋(南)	→76 ←18, 44	8	
47	C・D-13-14	曾II	円 形	540 × 480	40, 50, 一, 40		石罫(抜去)	北	全周	6	埋篋(南) 台石	→21, 103 ←154	28	深志III
48	D・E-12-13	曾III	円 形	460 × 430	一, 5, 5, 10	貼床	石罫	北	全周	4	埋篋(南)	←21, 40, 49 104, 106	12	
49	D-11-12	藤I	円 形	350 × 320	10, 5, 5, 10		地床炉	中央	全周	5		→48, 107	30	
50	D・E-11	藤I	円 形	(380)×(370)	一, 一, 一, 一		石罫	中央	一部欠	(5)		←108	31	
51	P・Q-9-10	狛沢	円 形	500 × 470	30, 一, 15, 30		掘込	西	なし	(4)		→10, 52	34	
52	P・Q-8-9	曾II	円 形	560 × 550	一, 一, 30, 45		石罫(抜去)	——	全周	5		←51, 53	35	
53	P・Q-7	曾II	円 形	490 × 440	一, 20, 30, 30		——	——	一部欠	4	台石	→52	35	

# 縄文時代出土遺物一覧表

住居	中 期 土 器															石 器											備 考						
	梨久	九I	九II	新道	岩沢	藤I	藤II	井I	井II	平3	管I	管II	管III	管IV	管V	三手形	土偶	備考	石鏡	石匙	大匙	打斧	横刃	石皿	磨石	敲石		凹石	磨斧	石錐	スリバ	石槌	備考
17	○			○	○	○	○				◎	○	○					有孔罎付	1		1	8							1	1	11	黒曜石フレーク多数	
18																																	
19										○	○	◎	○			○	○					13		1	1						13	黒曜石フレーク多数	
20			○		○						○	◎		○						2		1						3		1		*2	
21											◎	○	○					釣手	1			20			1		3		1		*2		
22											○	◎	○						1			5								3			
23											○	○	◎			○	釣手	1				4					1		1	2		黒曜石フレーク多数	
24			○				◎			○	○	○			○				2	2	27	2		1		1	1		2		*1 低石? 機器1不明?		
25			○		○			○		◎	○	○			○					2	21						2	1		1			
27			○					○		○	◎	○							3	1	1							2		1	4	*2	
28																																	
29			○		○	◎											土製口盤	3	1			7						2		1	6	*1	
30						○	◎	○							○		有孔罎付			1	7			1			1	1	3	4	*1		
31																																	
32			○								○	○	◎						1			10								1			
33												○	◎		○							16		1			3					不明1 石皿は板状	
34			○	○						○	◎	○										1											
35					○						○	◎										5					1		1	4			
36											○	○	◎						1			4		1			3	1		1			
37												○	◎									5						4		1		*1	
38	◎														○																		
39					○	○	◎			○	○	○										4						3	2		1		特磨1
40					○	○				○	◎	○							2		1	14					2	2		1	1	不明1	
41			○		○			○		○	○	◎	○									4						3				*2	
42		◎									○	○	○	○																			
43					◎	○		○		○					○	○						5	1	24				1		1	3		砥石
44		○		○	◎	○		○			○	○							2		1	2						1				*1 不明1	
45					○	◎																			1								
46			○		○						◎	○	○	○	○	○							2								2		不明1
47					○	○		○		○	◎	○					釣手	7				33					8	1		14		*4 砥石	
48										○	○	◎							3			2			1			3		2		◇2 特磨1	
49			○		◎										○						2	1	3									特磨2	
50			○		◎	○		○		○	○				○		器台			1	5					1	2					*1	
51				◎	○					○	○								1			7								1		不明1	
52			○		○	○		○		○	◎	○					釣手	2				24			2		3	1				*1 特磨1 機器2	
53			○		○						◎	○										4							1				特磨1

住居	場所 (グリッド)	時期	プラン	規模	壁高	床面	炉構造	位置	周溝	主柱穴	内部施設	切合い関係	頁	備考
54	H・I-8・9	曾II	円形	510 × 510	50, 40, 35, 50		石砌(抜去)	北西	全周	6	埋壁(南東)	→23	14	
55	G・H-6	新道	楕円形	500 × 440	45, 25, 35, 25		石砌	中央	なし	6		←83	36	
56	E・F-5・6	曾II	円形	560 × 560	30, 20, 20, 30		石砌(抜去)	北西	一部欠	6	台石	←83	39	
57	I-5・6	新道	楕円形	300 × 260	20, 20, 10, 15		埋壁炉	中央	なし	不明		→58	40	
58	H・I-5	新道	——	330 × 300	20, 10, 10, 10		石砌埋壁炉	南	なし	不明		←57	40	
59	J・K-4・5	曾I	円形	610 × 590	20, 10, 15, 10		石砌	西	全周	6	台石	←60	33	建替
60	J-5	藤II	——	390 × —	30, 5, —, —		——	——	なし	不明		→11, 59 ←61	33	
61	J-5	新道	——	(360) × —	20, —, —, 10		——	——	なし	不明		→11, 60	33	
62	M-7・8	曾II	楕円形	440 × (300)	10, 10, 10, —		——	——	なし	不明		→83 ←124	41	
63	L・M-7・8	曾II	楕円形	520 × 450	50, 20, 15, 50		石砌	北	全周	4	埋壁(南)	←62	41	
64	L・M-5・6	藤I	楕円形	610 × 520	5, 10, 15, 15		地床炉	中央	全周	不明		←43	26	
65	M-5	不明	——	——	—, 10, 10, —	貼末	——	——	なし	不明		←43, 64	26	
66	N-6	藤I	——	(250) × —	15, 5, —, —		——	——	なし	不明		→43, 64	26	
67	M-4・5	新道	——	400 × —	10, 10, —, 10		——	——	なし	不明		→86	42	
68	N・O-4・5	曾II	円形	(500) × (500)	—, —, —, —		石砌	中央	一部欠	5	台石		42	
69	N・O-4・5	新道	円形	590 × 560	25, 25, 30, 30		——	——	全周	6		←86	42	
70	H・I-7・8	曾II	円形	620 × 610	55, 35, 35, 40		石砌	中央	全周	6		←71, 150	43	建替
71	I-6・7	不明	円形	390 × (360)	—, 15, 15, —		——	——	なし	不明		→70	43	
72	D・E-8・9	新道	円形	480 × 430	—, 65, 30, 40		地床炉	中央	一部	5		←73, 74, 151	46	
73	E-9	曾I	——	——	15, —, —, —		——	——	なし	不明		→72, 74	46	
74	E-9・10	曾III	隅丸方形	— × 300	10, 15, —, 10		石砌(抜去)	南東	一部	不明		→72 ←73, 151, 158	46	
75	F-10・11	曾III	円形	420 × 400	40, —, 35, —		石砌(抜去)	北	全周	(5)		←109, 110	31	
76	E-16・17	曾IV	円形	460 × 430	55, —, 35, 50		石砌	北	一部	4	埋壁(南東) 台石	→136 ←46	8	
77	D-15・16	曾III	——	310 × —	15, —, —, 20		——	——	なし	不明		→136	47	
78	G・H-18・19	藤II	円形	590 × (570)	40, 25, —, 30		石砌(抜去)	中央	なし	6			47	
79	F・G-19・20	曾II	円形	550 × 540	20, 20, 25, 10		石砌(抜去)	中央	全周	6		→17 ←78, 80	48	
80	E・F-20・21	井I	円形	580 × 580	25, —, 20, 30		石砌埋壁炉	北西	なし	4		→45, 78, 137	49	床面に全面 焼土
81	J・K-21・22	曾I	——	(470) × (450)	15, —, —, —		——	——	なし	不明			48	
82	I・J-22	曾III	円形	570 × (560)	—, 25, 20, 35		石砌(抜去)	東	全周	4	埋壁(西)		50	
83	F・G-6・7	井III	円形	470 × (440)	30, 5, —, —		埋壁炉	中央	なし	(5)		→55, 56, 97	36	
84	R-12・13	曾II	楕円形	490 × (380)	25, 15, —, 15		石砌	中央	全周	(5)			51	
85	S-15・16	新道	——	(460) × —	30, 25, —, 20		——	——	一部	不明			51	
86	M・N-4・5	藤I	円形	520 × 470	30, 50, 40, 45		石砌	中央	一部	不明		→69 ←67	42	
87	R-13・14	不明	——	——	25, —, —, 25		——	——	なし	不明			51	
88	P・Q-21・22	井I	円形	570 × 530	35, 15, 20, 30		石砌	中央	なし	6		→90 ←91, 130	52	
89	N・O-21・22	藤I	楕円形	610 × 500	35, 15, 20, 25		石砌	中央	一部	4		→90	52	
90	O・P-22・23	曾III	円形	480 × 450	35, —, —, —		石砌(抜去)	東	全周	4	埋壁(西) 台石, 立石	←88, 89, 91	52	

住居	中 期 土 器														石 器																						
	梨 久	九 I	九 II	新 道	弥 沢	藤 I	藤 II	井 I	井 III	平 3	曾 I	曾 II	曾 III	曾 IV	曾 V	三 手 瓦	土 偶	備 考	石 鏃	石 匙	大 匙	打 斧	横 刃	石 皿	磨 石	敲 石	凹 石	磨 斧	石 錐	石 鏃	石 棒	備 考					
54								○		○	◎											6				1		1						石器1			
55			◎		○	○			○	○		○						有孔罅付	1		1	9								1							
56					○	○					○	◎	○				○		2		1	27			1		3	2	1	2			*1				
57			◎		○			○		○												2															
58	○		◎	○							○	○										2					1							特磨1			
59			○		○						◎	○									1	11			1		1										
60			○	○	○	◎					○											1			1												
61	○		◎						○																					1	1						
62	○										○	◎																									
63	○		○	○	○	○						◎	○	○					5			13			2			1		5				特磨1			
64			○		◎	○				○	○	○										8		2	1		2	1						*2			
65																																					
66			◎																									1									
67			◎		○																	2			1												
68			○		○				○		◎	○					○					4					2	1							*1		
69			◎																																		
70					○					○	◎	○					○	約手 有孔罅付				26	1	1	3	1	7		1					砥石1			
71																																					
72			◎	○	○				○									有孔罅付			2																
73	○		○		○	○		○	○	◎	○	○						有孔罅付			1	6		1			1		1	1	1			不明1			
74			○		○	○		○		○	○	◎	○									1							1	5							
75						○				○	○	◎	○									16			1		2	1		2					特磨1		
76												○	◎	○																1							
77			○		○	○				○	○	◎										5			1			1									
78					○	◎				○	○											3	1		10	2		1		1					*1 砥石1		
79				○		○					◎	○	○				○					5		1			2								*1 石皿は 板状		
80			○	○	○	○	◎	○		○	○	○	○									5									2						
81			○		○						◎	○	○																								
82	○		○		○	○				○	○	◎					○					3		6	2	2		2		1	3				*1 石皿は 板状		
83					○	○		◎		○	○	○																									
84					○			○		○	◎	○										3							2								
85	○		◎		○	○	○	○		○	○													1													
86	○		○		◎						○																									不明2	
87																																					
88					○	○	◎	○	○	○	○	○											5										1				
89					◎	○		○		○	○	○											4		1		1	1		1	4					*1	
90								○		○	○	◎	○									1		13			4		5	2		1				不明1	



住居	場所 (ブロット)	時期	プラン	規模	壁高	床面	炉構造	位置	周溝	主柱穴	内部施設	切合い関係	頁	備考
91	P・Q-22・23	曾Ⅲ	楕円形	(430)×(340)	35, -, 25, -		——	——	なし	不明		→88, 90	52	
92	L・M-21・22	曾Ⅲ	円形	520 × 480	15, 10, 5, 10		石囲(除去)	東	一部	5		→6, 7, 126	56	
93	K・L-20・21	曾Ⅱ	円形	570 × 570	30, 15, 10, 10		石囲	中央	なし	4		→7	57	
94	K・L-19・20	曾Ⅱ	楕円形	350 × 300	10, 10, 10, 15		——	——	半周	(4)			58	
95	L-18・19	不明	楕円形	310 × 240	20, 20, 20, 10		——	——	なし	不明			58	
96	M-18・19	不明	円形	330 × 300	-, 15, -, 15		——	——	なし	5		→5	58	
97	F-7	曾Ⅱ	円形	250 × 250	30, -, -, 35		掘込	中央	全周	4		←38	57	
98	D・E-18・19	新造	円形	620 × 610	50, 40, 15, 50		石囲	北西	一部	5		→17, 99	60	深志Ⅱ
99	C・D-19・20	曾Ⅲ	円形	390 × 370	50, 50, -, 60		石囲(除去)	中央	なし	(3)	埋蔵(南)	←98, 164	60	深志Ⅴ
100	B・C-18・19	曾Ⅰ	円形	490 × 460	15, 10, 20, 10		掘込	中央	なし	4			59	深志Ⅷ
101	B・C-17・18	曾Ⅲ	円形	440 × 400	30, 10, 30, -		石囲(除去)	北	一部欠	4	埋蔵(南)	←155	62	深志Ⅷ
102	B-14	新造	円形	370 × 340	55, 45, 55, 45		石囲	中央	なし	4			63	深志Ⅵ
103	B・C-12・13	竊沢	楕円形	540 × 440	70, 55, -, 60		石囲	中央	なし	5		←47	64	深志Ⅳ
104	D-12	九Ⅰ	——	——	10, -, -, -		——	——	なし	不明		→46, 105, 106	30	
105	C・D-12	新造	楕円形	440 × (350)	20, -, -, 15		——	——	なし	(4)		→106, 107 ←104	30	
106	C・D-12	梨久	円形	470 × 460	10, 50, 10, 10		——	——	一部欠	不明		→48, 50, 107 ←104, 105	30	
107	C・D-10・11	曾Ⅱ	円形	480 × 470	-, 15, 25, 20	貼床	石囲(除去)	中央	なし	6		←49, 105, 106	30	炉石に石皿 1使用
108	D・E-10・11	不明	円形	540 × 500	45, 45, -, 50		——	——	一部	不明		→50 ←106, 109	31	
109	E・F-10・11	曾Ⅰ	円形	470 × (460)	45, -, -, 40		石囲埋蔵炉	中央	一部	不明		→50, 75, 108, 158	31	
110	F-10	不明	円形	350 × (320)	-, 20, 15, -		——	——	なし	不明		→75	31	
111	E-20	不明	——	——	-, -, -, -		石囲	不明	——	不明		←45	6	
112	N-18	不明	楕円形	370 × (240)	-, 10, 15, -		——	——	なし	不明		→4, 19	58	
113	P・Q-23・24	藤Ⅱ	楕円形	640 × 570	45, 25, 35, 45		掘込	北	全周	6			65	114 Hを拡張 建替
114	P・Q-23・24	藤Ⅰ	楕円形	(550)×(400)	-, -, -, -		掘込	中央	全周	不明			65	113 Hに拡張 建替
115	R-24・25	曾Ⅰ	——	610 × -	-, 15, 15, 30		——	——	なし	(4)			66	
117	N・O-9	曾Ⅲ	円形	(400) × 370	-, 20, 20, 20		——	——	なし	不明			66	
118	N-8・9	曾Ⅱ	楕円形	(480) × 400	20, -, 30, 20		石囲(除去)	西	一部	6		→119, 124	41	
119	N-7・8	曾Ⅰ	円形	270 × 240	10, 20, 20, -		——	——	なし	4		→124 ←118	41	
120	F-3・4	竊沢	円形	420 × 390	35, 30, 30, 30		地床炉	中央	全周	4			68	焼失家屋
121	D・E-2・3	竊沢	円形	310 × 300	20, 25, 25, 20		石囲	中央	なし	4			69	
122	P・Q-11・12	不明	楕円形	470 × 340	10, -, 10, 15		石囲	中央	なし	4		→16	67	
123	J・K-19・20	井Ⅲ	円形	600 × 570	10, 5, 15, 5		石囲	北東	なし	4		→13	48	
124	M・N-7・8	曾Ⅱ	円形	460 × (450)	10, 10, -, -		——	——	なし	不明		→82 ←118, 119	41	
125	F-21	不明	円形	(670) × (670)	25, -, 20, -		——	——	なし	6		→79, 80, 137	49	
126	L・M-22・23	曾Ⅴ	円形	540 × 520	30, -, -, 10	一部 貼床	石囲(除去)	中央	なし	6		←92	56	
127	M・N-22・23	不明	円形	(500) × (500)	-, 5, 5, -		——	——	——	不明			56	
128	M・N-23	曾Ⅲ	円形	(370) × (370)	-, -, 10, -		——	——	なし	不明	埋蔵(北西)		56	

住居	中 期 土 器															石 器										備 考					
	梨久	九 I	九 II	新道	宮沢	藤 I	藤 II	井 I	井 II	平 3	曾 I	曾 II	曾 III	曾 IV	曾 V	三ツ子	土 偶	備 考	石 鏝	石 匙	大 匙	打 斧	横 刃	石 皿	磨 石		凹 石	磨 斧	石 鏟	石 棒	備 考
91	○			○	○						○	○	◎				器台														
92	○	○		○		○						◎	○									2				1	1				* 1
93											○	◎	○										1								
94				○		○	○					◎											2								打斧1は大匙型
95						○						○	○	○																	
96						◎																									
97								○		○	◎																				
98			◎		○	○				○	○											7			1						
99												◎							1		3					1				* 1	
100											◎								1	1		2							3		
101												◎							4		1			1	1		7		* 1		
102			◎																3	1	3		1					4			
103				◎															6	1		56				1	4	1		* 1 ◇ 1	
104	○	◎																												特磨1	
105		○		◎					○													1									
106	◎																					2								特磨1	
107			○		○				○	○	◎	○					有孔鑿付				4									磨器2	
108																○															
109						○				◎	○	○										4		1			1				
110																															
111																															
112																															
113						◎																									
114			○	○	◎	○							○		○				1		1	8				1	2		4		
115					○	○			○													2									
117										○	○	◎										1									
118											◎																				
119										◎	○	○										3								特磨1	
120				◎	○	○									○	○			8		28		1	2		1		6	特磨2		
121				◎				○		○									1												
122										○	○																				
123			○		○	○		◎		○	○								1			12						1	尖頭状石器1		
124										○	◎																	1			
125																															
126			○		○	○		○		○	○	○	○	◎		有孔鑿付						9					3	1		3	
127										○																	1				
128												◎															1				* 1

住居	場 所 (グロット)	時期	プラン	規 模	壁 高	床面	炉 構 造	位 置	周 満	主柱穴	内部施設	切合い関係	頁	備 考
129	Q-6・7	不明	円 形	470 × (450)	20, 一, 一, 10		石砌	東	なし	4			67	
130	Q-22	不明	—	290 × —	20, 10, 5, 一		—	—	なし	不明		→88	52	
131	Q・R-22・23	曾Ⅳ	円 形	470 × 450	15, 一, 一, 10		石砌(拔去)	中央	半周	4	埋塞(南西)		70	
132	I・J-3・4	曾Ⅰ	円 形	450 × (400)	一, 25, 10, 15		石砌	北東	全周	4		→11	71	
133	K-2	藤Ⅱ	楕円形	400 × (320)	15, 一, 30, 20		—	—	なし	不明		→134	71	
134	K-2	不明	—	—	30, 一, 30, 30		—	—	なし	不明		←133	71	
135	J-2	不明	円 形	630 × (630)	一, 45, 45, 一		—	—	一部	6		→24	18	
136	D・E-15-16	曾Ⅱ	円 形	490 × 480	45, 30, 45, 25		石砌	北	全周	6		←76, 77, 152	72	
137	E-21-22	曾Ⅲ	—	480 × —	一, 一, 45, 30		—	—	一部	不明	埋塞(南西)	→182 ←80, 125, 163	73	
138	H・I-10	曾Ⅲ	楕円形	420 × 340	一, 一, 20, 20		—	—	なし	不明		→23	14	
139	O-16・17	曾Ⅳ	楕円形	300 × 240	一, 15, 15, 10		—	—	なし	不明		→4 ←140	72	
140	O-17-18	井Ⅲ	楕円形	(480) × (380)	25, 一, 20, 一		—	—	なし	不明		→4, 139	72	
141	F-5	曾Ⅰ	円 形	(370) × (340)	一, 15, 10, 15		—	—	一部	(4)			39	
142	P・Q-21	不明	円 形	(430) × 410	一, 15, 20, 15		掘込	北東	なし	(3)			52	
143	M・N-20	不明	楕円形	450 × 370	一, 5, 一, 30		石砌	中央	なし	5		←144, 145	74	
144	N-19-20	不明	円 形	(480) × (450)	一, 5, 25, 一		—	—	全周	4		→143	8	
145	N・O-20-21	藤Ⅱ	円 形	510 × 500	45, 一, 25, 40		石砌	中央	一部欠	5		→6, 143	74	
146	C・H-23-24	曾Ⅲ	—	560 × —	40, 一, 35, 60		—	—	全周	(4)			73	建替
147	D・E-23-24	曾Ⅲ	円 形	530 × 480	50, 一, 50, 45		石砌(拔去)	北	全周	4	埋塞(南西)		75	
148	D・E-24-25	曾Ⅲ	円 形	540 × 540	30, 25, 20, 40		石砌(拔去)	北東	半周	4	埋塞(南西) 台石		71	
149	D・E-26-27	曾Ⅰ	楕円形	550 × 470	20, 5, 5, 10		石砌埋塞炉	北西	なし	6			77	建替
150	F・G-7・8	藤Ⅰ	円 形	520 × 500	40, 25, 20, 40		石砌	北	全周	5		→70	77	
151	D・E-9・10	不明	—	—	一, 20, 一, 15		—	—	一部	不明		→72, 74	46	
152	D・E-14-15	不明	円 形	(510) × 470	一, 一, 10, 35		石砌	西	一部	4		→22, 136	47	
153	H-18-19	不明	楕円形	440 × 300	30, 15, 一, 5		掘込	東	なし	不明		→2 ←78	47	
154	D-13-14	新道	—	—	50, 一, 10, 一		—	—	一部	不明		→47 ←22	28	
155	B-17-18	不明	—	450 × —	一, 10, 一, 10		—	—	なし	5		→101	62	
156	Q・R-19-20	不明	円 形	640 × 620	一, 一, 一, 一	貼床	—	—	なし	(6)			76	
157	S-17-18	曾Ⅰ	—	(470) × —	20, 10, 一, 20		—	—	全周	(4)			76	
158	E・F-9・10	藤Ⅰ	楕円形	510 × 430	25, 20, 一, 10		—	—	なし	5		→74	31	
159	Q-20-21	曾Ⅳ	円 形	430 × 410	一, 一, 一, 一		石砌(拔去)	東	一部	4	埋塞(西)		78	
160	R-20-21	曾Ⅴ	円 形	370 × 360	一, 一, 一, 一		石砌(拔去)	南	なし	5	埋塞(北)		78	
161	E・F-23	不明	—	(330) × —	40, 一, 40, 40		—	—	一部	不明			76	
162	E-22	曾Ⅲ	—	—	一, 一, 一, 一	貼床	—	—	—	不明		←137	73	
163	D・E-20-21	曾Ⅲ	—	—	一, 20, 一, 一		—	—	なし	不明		→137, 164, 165	79	
164	C・D-20-21	曾Ⅲ	円 形	510 × 510	10, 35, 30, 40		石砌(拔去)	北東	全周	4	埋塞(南西)	→99, 165 ←163	79	
166	E-20	曾Ⅲ	—	—	一, 一, 一, 一		—	—	—	不明	埋塞		79	

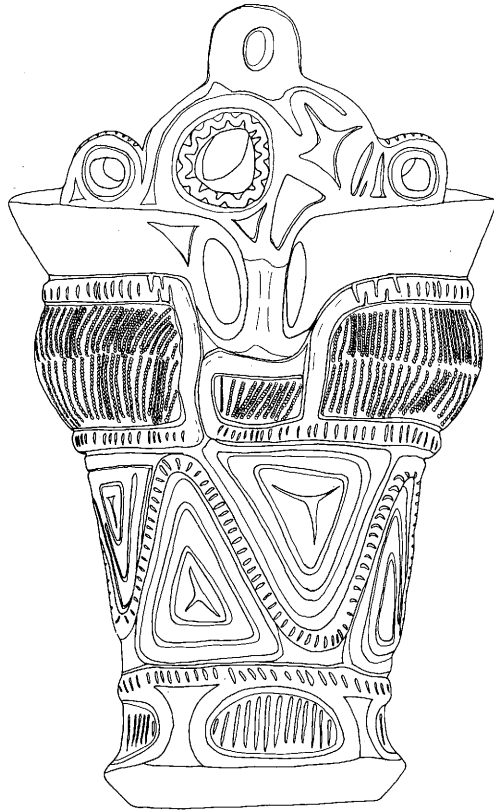
住居	中 期 土 器															石 器																		
	梨久	九I	九II	新道	狹沢	藤I	藤II	井I	井III	平3	曾I	曾II	曾III	曾IV	曾V	三手形	土偶	備考	石鏃	石匙	大匙	打斧	横刃	石皿	磨石	敲石	凹石	磨斧	石錐	石棒	備考			
129																						1												
130																																		
131	○						○	○				○	◎																					
132							○	○		◎	○	○	○					土鈴															特磨1	
133						◎	○																											
134					○		○				○	○																						
135															○																			
136											◎																							
137											◎																							
138											◎																							
139													◎																					
140								◎		○	○	○										2				1							*1	
141				○	○	○	○	○	○	◎	○											2				1							*1	
142																																		
143																																		
144																																		
145			○		○	◎	○					○						顔面把手付土器																
146			○	○	○	○	○	○	○		○	○	◎	○	○							14				2	1		10					
147					○	○					○	◎	○				土鈴	1			10													
148					○		○		○	○	◎										1						1							
149					○	○	○	○		◎	○	○																						
150			○		◎	○	○															4	1	2		1	1		1				特磨1(凹有)	
151																																		
152																																		
153																																		
154	○		◎				○					○																						
155																																		*1
156																																		
157						○				◎																								
158					◎																1		3											
159													○																					
160														○																				
161																																		
162												◎										1												
163			○		○						○	◎																	1	3				
164												◎										4	1			1								*1
166												◎																						

## 平安時代住居址一覧表

住居	場所 (フリット)	時期	プラン	方向	規模	壁高(cm)	床面	竈構造	位置	周溝	主柱穴	内廊施設	切合い関係	頁	備考
1	I-13-14	Ⅳ期	隅丸方形	N10°W	400×390	30, 20, 20, 25	床面	石 罫	北壁東寄	一部	2	北西隅に小竈穴		82	
2	H-I-18-19	Ⅱ期	〃	N5°E	360×360	20, 5, 5, 20		石 罫	東壁中央	なし	なし	竈西壁に小竈穴	←153	83	
3	J-19	Ⅳ期	〃	N-S	290×290	20, 5, 5, 10		石 罫	北壁中央	なし	なし		←13	83	
4	N-O-17-18	Ⅲ期	〃	N10°E	570×560	30, 20, 20, 20		石 罫	東壁中央	全周	4	竈石罫に小竈穴	←112, 139, 140	84	床面中央に炭化物
5	M-N-19		〃	N-S	380×320	45, 30, 30, 25	貼床	石 罫	東壁中央	一部	4		←19, 96, 140	84	
6	M-N-21-22		〃	N85°E	380×350	25, 25, 15, 10		石 罫	北壁中央	一部	2		←92, 145	85	床面に焼土・炭化物
7	L-20-21	Ⅲ期	〃	N80°W	360×310	25, 25, 20, 30		粘土	北壁西寄	一部欠	4		←92, 93	85	
8	P-19	Ⅰ期	〃	N85°W	340×300	15, 10, 5, 10	貼床	粘土	北壁中央	なし	4			85	
9	L-M-12-13	Ⅲ期	〃	N85°W	370×330	20, 15, 15, 20		石 罫	北壁中央	一部	2			86	
10	Q-R-10-11	Ⅰ期	〃	N85°W	530×-	30, 10, -, 20		石 罫	西壁中央	一部	2		←16, 122	86	床中央に灰・焼土
11	I-J-4-5		〃	N10°E	440×440	30, 15, 10, 20	一部貼床	粘土	東壁中央	全周	3		←60, 61, 132	86	
12	O-1	Ⅰ期	〃	N80°W	340×280	30, 20, 20, 30		石 罫	西壁中央	なし	2	南東隅に小竈穴		87	
13	J-19-20		〃	N-S	380×330	20, 5, 25, 5		石 罫	東壁南寄	一部	なし		→3 ←123	83	焼失家屋
14	K-6-7	Ⅲ期	〃	N85°E	440×410	20, 10, 10, 30		石 罫	北壁中央	一部	1			87	焼失家屋
15	K-L-9-10	Ⅱ期	〃	E-W	500×460	15, 25, 15, 30		石 罫	北壁中央	一部	1			88	
16	P-Q-10-11	Ⅰ期	〃	N75°W	370×320	30, 15, 30, 20		石 罫	西壁中央	一部	2		→10 ←122	88	
26	M-N-2-3	Ⅰ期	〃	E-W	460×440	50, 40, 30, 40	貼床	石 罫	西壁北寄	半周	3			88	
116	M-N-9	Ⅲ期	〃	N5°E	410×330	20, 20, 15, 25	貼床	石 罫	西壁中央	全周	4			89	
165	C-20-21	Ⅳ期	不明	N5°W	—	—, —, —, 30		不明	不明	なし	不明		←163, 164	79	

## 平安時代出土遺物一覧表

住居	土 師 器					須 恵 器					灰 釉 陶 器					鉄 器					その他		
	杯	皿	小型	鉢	羽	杯	蓋	壺	長	四	皿	腕	耳	長	短	鋤	刀	釘	鉄	鉄		鉄	
	杯	高台	皿	高台	型	釜	鉢	蓋	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	
1	○	○		○	○							マ	コ	マ		○			○				
2	○	○		○	○							○	オ	○								墨書	
3	○		○		○			○	○	○		オ	マ								○		
4	○	○		○	○			○	○	○	○	○	オ	コ	○							墨書	
5	○	○		○	○	○		○	○	○	○	コ										○	
6	○	○		○	○							コ											
7	○	○		○			○				○	○	オ	コ									
8	○			○	○			○														○	
9	○		○	○	○			○				オ	○		○	○			○			敲打器	
10	○			○				○	○	○										○			
11	○	○		○	○							コ										墨書	
12	○	○	○	○	○				○	○	○											墨書	
13	○	○		○	○				○	○	○		○										
14	○	○		○	○				○			オ	コ	オ	○			○	○			○	敲打器, 砧, 台石
15	○		○	○	○			○			○	○	ヒ	オ								○	墨書
16	○	○		○	○			○	○	○	○												墨書
26	○			○	○			○					○									○	墨書, 台石
116	○	○	○	○	○							オ	○										
165	○																						



第88号住居址出土の深鉢形土器

## 俎原遺跡

---

---

長野県塩尻市俎原遺跡発掘調査概報

発行日 昭和61年3月25日

発行 塩尻市教育委員会

印刷 株式会社 東信

---

---

